

3 経営環境・業績報告

経営環境

令和6年度のわが国経済は、物価上昇を受けた企業業績の拡大による設備投資の増加や賃上げ等、所得環境の改善による個人消費の回復が期待されたものの、海外景気の減速への警戒感から緩やかな回復に留まりました。

金融面では、少子高齢化に伴う人口減少による顧客獲得競争の一層の激化に加え、金融政策の正常化が段階的に進んだことにより年度を通して長期金利が上昇基調で推移し、調達コストの増加等、事業環境の変化(金利のある世界)への迅速な対応が必要とされる年度となりました。また、SDGs(持続可能な開発目標)・サステナブル経営やESG(環境・社会・企業統治)投資

等をはじめとする環境・社会に配慮した取組みが求められており、JAバンクとしても社会的使命の一つとして果たすべき優先事項となっています。

農業面では、ロシアによるウクライナ侵攻等の影響により、肥料・飼料・燃料ならびに農業資材価格が高止まりし、農業経営がひっ迫している状況が継続しているなか、「食料・農業・農村基本法」が四半期世紀ぶりに改正され、「食料安全保障の抜本的な強化」、「環境と調和のとれた産業への転換」、「人口減少下における生産水準の維持・発展と地域コミュニティの維持」を柱とし、今後の農業の在り方が示されました。

業績報告

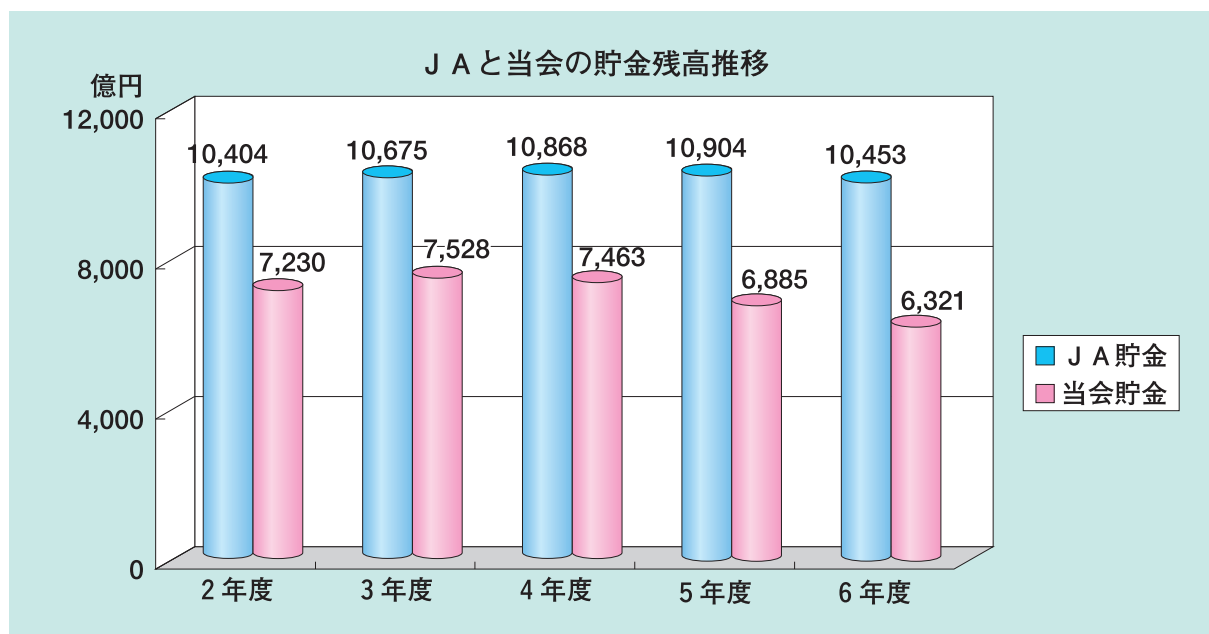
このような金融経済環境のもと、役職員一同、業績の向上と経営内容の充実に努めました。以下、業績をご報告いたします。

貯 金

県内JA貯金は、キャンペーンや金利上乘せ商品の提供を実施したものの、物価高騰に伴う個人貯金の減少や国民スポーツ大会開催による公金貯金の流出等により、前年度を下回る1兆453億円となりました。

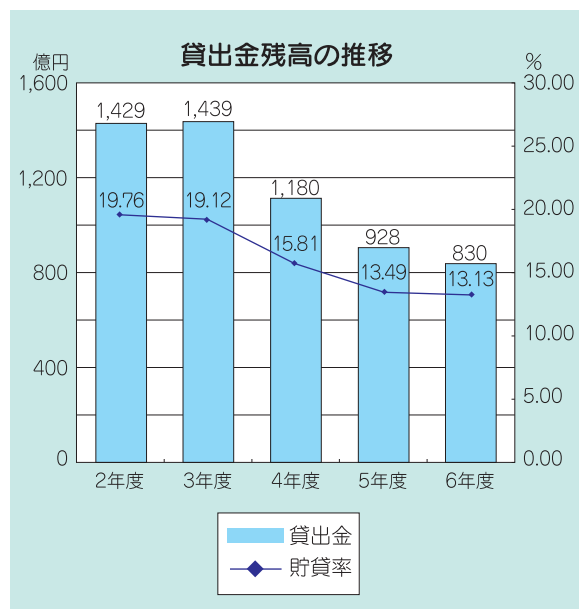
当会への貯金は、長期安定資金の確保の

ため「JAバンク佐賀」としてJAと一体となった系統貯金の増強に取り組むとともに、大口先を中心とした系統外貯金の獲得に努めたものの、JA自主運用額の増加に伴うJAからの受入貯金減少等により前年度を下回る6,321億円となりました。



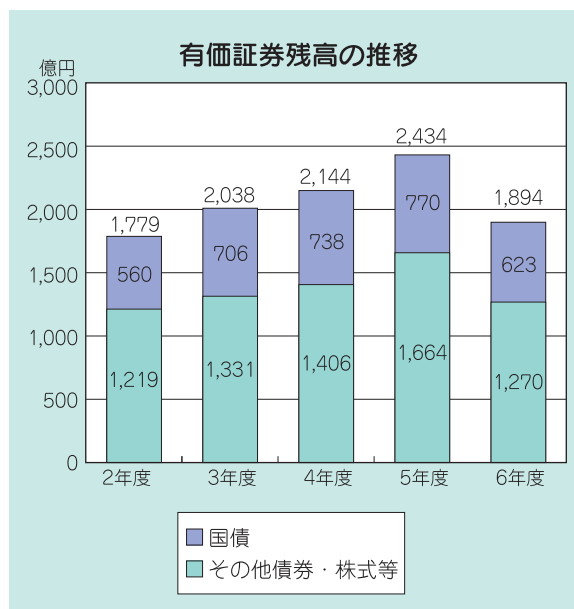
貸出金

地域金融機関として、食農関連企業や地場企業等への新規取引開拓ならびに既取引先との取引拡大に努めたものの、金融機関向け等の大口の貸出が償還を迎えたことにより期末残高は前年度を下回る830億円となりました。



有価証券

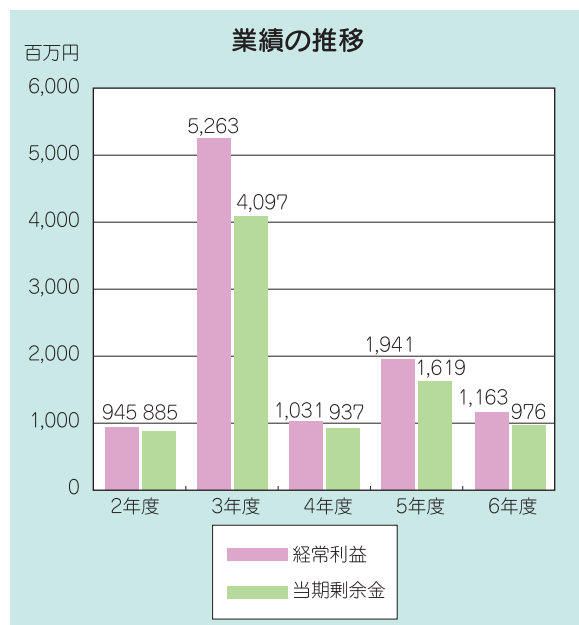
日銀による金融政策の正常化に伴い、国内金利が上昇傾向で推移するなか、低利回り債券の売却を進めるとともに、保有債券の入替えにより内容改善を行う等、リスク・リターンを考慮した効率的なポートフォリオの構築に努めた結果、期末残高は前年度を下回る1,894億円となりました。



損益の状況

資金運用の効率化や経費の抑制など経営全般にわたる合理化等に努め、当期剰余金を976百万円計上しました。

なお、令和3年度は会員JAへの長期安定還元に向けて2,400百万円の目的積立金の創設をしたため、例年と比較し、多くの当期剰余金を計上しています。



自己資本比率

バーゼルⅢ最終化適用の影響等によりリスク・アセットは増加しましたが、安全基準とされる国内基準4%を上回る18.64%となり、高い健全性・安全性を確保しています。

